

三重県育成のカンキツオリジナル品種

東紀州地域は温暖な気候を活かしたカンキツ生産が盛んです。しかし、近年の景気低迷やカンキツ消費量の減少等により厳しい経営状態が続いています。一方、カンキツの品種については全国的に高品質な県オリジナル品種が育成されています。そこで、三重県においても産地の活性化と農家経営安定化のために優秀な県オリジナル品種の育成を行っています。これまでに、温暖な気候を活かした早期出荷のための極早生ウンシュウとして「みえ紀南1号」と「みえ紀南3号」を育成しました。また、周年栽培のために越冬栽培が可能な優良中晩生カンキツとして「みえ紀南2号」と「みえ紀南4号」を育成しました。

みえ紀南3号

「上野早生」に「新甘夏」の花粉を交配して育成した。樹勢は「上野早生」より強く、トゲの発生が時々ある。収穫期は9月下旬～10月中旬で、「みえ紀南1号」に続いて収穫できる極早生。果実は扁平で、減酸が早く浮き皮も少ない。糖度が高く食味は良好。



みえ紀南2号

「アンコール」に「森田ボンカン」の花粉を交配して育成した。樹姿はやや立ち性で樹勢はやや強い。成熟期は1月下旬～3月中旬。糖度は13～14%、で食味は良好である。退色防止のため、袋かけ栽培が望ましい。



みえ紀南1号

「崎久保早生」に「サマーフレッシュ」の花粉を交配して育成した。樹勢は「崎久保早生」より強く、トゲの発生が時々ある。収穫期は9月中旬で極早生。果実は扁平で、果肉色が濃く、大きさは90g前後、減酸が早く糖度も高く食味は良好。



みえ紀南4号

「清見」に「春光柑」の花粉を交配して育成した。2月下旬～3月下旬が収穫適期であるが、貯蔵により4月～5月にも出荷できる。果実は250g程度、糖度は12～13度。種子は無く、さわやかな風味がある。果皮は硬いためカットして食べる。



三重県農業研究所 紀南果樹研究室

〒519-5202 三重県南牟婁郡御浜町志原2327

TEL 05979-2-0008 FAX 05979-2-2679